

環境学習プログラム 区分6 自然や生きものたちをまもる

プログラム名	自然や生きものたちを見てみよう
学習のねらい	自然はなぜ大切なのかを動化、どうしたら自然が維持でき、まもれるのかを考える。
主な対象者	小学校3年生から中学生と父兄の15～20家族(中学生は父兄不要)
準備するもの	参加者を運搬する車(自家用車、小型バス、ワゴン車など) 見学地(宇部市近郊の放棄田や荒地から整備された水田、棚田、公園など) 記録ノートなど(双眼鏡、カメラなどは自由に持参) 学習会会場、必要な保険など
学習のながれ	初冬から早春にかけて、郊外の水田地帯や山林を見学、美対前の状況や手入れのされていない公園などの様子を観察。個人別に感想文をノートに記入させる。 水田の整備や公園の管理が終わった頃に再訪し、きれいになった様子を見学し、日本の自然は人の手によるもので成り立っていることをなどを学習させる。 春や秋、昆虫や鳥の多い時期に自然観察会を行い、どのような場所に生きものの種類が多く清掃しているかを学習させる。 時期により、年により観察の場所や昆虫、鳥、植物などの生きものの種類を変えてゆけば長期間の学習が可能。
結果について考える	各自に観察ノートを管理させ、毎回持参、感想などを記録させたら、テーマに沿って学習会を行う。小班に分け、各班で検討し、 ①自然の大切さについて ②どうしたら自然が維持できるのか を時間をかけて全員でまとめあげる。①、②は別の日時を設定してもよい。
興味がわいたら	身近な保全、保護活動として、昆虫の保護区での観察会やごみ性雄作業、絶滅危惧種の昆虫見学会を行い、現実にはできる保全、保護作業を考えていただく。
所要時間	期間:1年間、年4回程度(2回はフィールド観察) 2回:半日(9:00～12:00)は勉強会 2回:1日(9:00～15:00)はフィールド観察と検討会。 1日の観察会では弁当持参となります。
学習の会場	①会議室 ②屋外フィールド
プログラムをやるときに気をつけなければならない点	フィールドでは季節や場所に適した服装でのぞむこと。
参考となる情報	
プログラム提供者	管 哲郎 090-7074-4922
備考	プログラム提供者に連絡先のあるものは相談に乗っていただけますが、まず、まちなか環境学習館に連絡して下さい。